



こんにちは 最前線

伴帥会 愛野記念病院 栄養科

2つの栄養サポートチームで
効果的に多くの患者の栄養を
サポートする

◆NST回診の様子。こちらはNST専従・専任者のみのBチーム。右がNST専従の管理栄養士、伊藤千華さん、患者と向き合うのが専任の菅野弘士医師、うしろが森野桐子薬剤師。

◆こちらはAチームの回診。右端がNSTチェアマンの前田 滋医師。



◆褥瘡対策チームによる回診。左から伊藤さん、山中健生形成外科医師、ひとりおいて井上裕也理学療法士、丹生谷優季言語聴覚士、吉田直美看護師。





④ 口腔ケア回診の様子。右端から歯科衛生士の2人、吉田歯科医師、鶴田歯科医師、管理栄養士の堤 郁恵さん、出田直子言語聴覚士。

⑤ NST では「食べることをあきらめない」と話す前田医師。



⑥ 吉田歯科医師と鶴田歯科医師が実際に口腔ケアを行う。

医療法人伴帥会愛野記念病院は長崎県、島原半島の付け根である雲仙市愛野町にあり、約30年にわたり医療活動を展開している。

同院は診療科数15科、病床数260床で、平均在院日数が16日の病院だ。整形外科、内科、外科を中心に2次救急の病院として「患者さま第一」をモットーに安心で良質な医療を提供している。また、高齢者の患者が多いというのも特徴の一つだ。

栄養・給食部門は栄養科の名称で、管理栄養士7人、栄養士4人、調理師および調理員が12人所属している。給食部門は直営とし、1日平均730食を提供している。

●●●● 2チームで活動する NST

同院の栄養管理において特徴的なのは、2チーム制で活動する

NSTだ。具体的には、専従・専任スタッフ4職種のみで構成されたBチームと、そこにNST担当の看護師・薬剤師・臨床検査技師・医療ソーシャルワーカー、言語聴覚士・理学療法士・作業療法士が加わったAチームの2チーム体制となっている。

NSTの介入対象患者の抽出や最初の回診は基本的にNST専従・専任スタッフのみのBチームが行う。Bチームの回診は週5回、1日につき5～6人を対象としている。

Aチームの対象となるのはBチームで検討した際に重症と判定された患者で、看護師や各職種からの情報を、週1回のカンファレンスと回診で総合的に検討する機会となっている。

まずは少人数のBチームで栄

養の状態を確認し、難渋症例と判断された場合はAチームで検討するというこの方式では、「多くの患者さんについてしっかりと対応できるようになったのが大きい。経口摂取可能な患者さんが増えたように感じている」(NST専従の管理栄養士、伊藤千華さん)。

●●●● 各チームが連携して活動する

また、同院には褥瘡対策委員会と協働のNST褥瘡対策チームや、緩和ケアチームが活動している。褥瘡対策チームは形成外科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・管理栄養士で構成され、週1回の褥瘡回診を行っている。管理栄養士はNST専従者が参加し、早期からの栄養管理を行っている。

緩和ケアチームは医師、看護師、



➡ 栄養指導を行う管理栄養士の松井真祐美さん。



➡ 緩和ケアミーティングの光景。右が深堀知宏医師，その隣に管理栄養士の中村真知子さん。

➡ 管理栄養士の橋本裕子さん（中央）が中村優子看護師と患者の摂食状態を確認する。



薬剤師，理学療法士，作業療法士，管理栄養士で構成され，2週間に1回カンファレンスを行っている。このチームでの管理栄養士の役割は，患者個人に対応した食事の提案で，「明日の楽しみとなるような食事を提供し，患者さんに満足していただきたい」（管理栄養士，松井真祐美さん）としている。

●●●●● 食べることをあきらめない

同院で診療をする主な患者について，NST チェアマンで副院長の前田 滋医師は，「当院は高齢で整形外科疾患の入院患者さんが多い。こうした患者さんは大腿部骨折などで入院し，手術のための絶食があり，それを契機に摂食障害に陥り栄養管理が必要になる

ケースが多い」と話す。

大腿部骨折などで入院となる高齢患者は自力で動くことがむずかしくなることで，身体の活動も減り，食に対する意欲も衰えていく。

「そんな状況にいる患者さんこそ，環境を変える必要がある。1日中ベッド上の患者さんを車椅子に乗せて外に出すことに始まって，当院では週に1回，患者さんを集めて『さるこう会』と称する集団レクリレーションを行い，できる限り病棟とは違った環境に置くようにしている」（前田医師）

同院のNST は前田医師の主導で始まった。

「とにかく，嚥下は可能なのに拒食と思われる摂食障害の患者さんが多くなってる。NST を開始

するために多職種の勉強会から始め，ようやく現在のような2チーム制に落ち着いてきた」

●●●●● 院外からのスタッフを招き，口腔ケアを広める

NST に加えて前田医師が推進したものとして，口腔ケアがある。

「急性期の患者さんは口のなか汚くなりやすく，誤嚥性肺炎の原因となるので，本格的な口腔ケアをしたい」と考えていた前田医師が相談したのは，近隣で歯科医院を開く鶴田博文歯科医師。そして鶴田歯科医師とスタッフの歯科衛生士が愛野記念病院の患者の口腔ケアと，その方法を院内のスタッフに教育することとなった。

「まず，口腔ケアの重要性を周



④ 4月から管理栄養士となった新人2人（左から石橋亜弥さん、林裕美さん）にとろみ剤などの使用法を教える松井さん。

① NST ミーティングの光景。Aチームのミーティングを行い、このあと回診に出る。その後Bチームの回診を行う。

② 愛野記念病院 NST のメンバー。



③ NST 介入患者へ提供された個別対応食のお弁当。



知するために、愛野記念病院の全職員に対して口腔ケアのトレーニングを実施した。その後、看護師をはじめとする各職種に方法を教えてきた」（鶴田歯科医師）

こうした成果が実り、入院患者の口腔内状況が改善されてきた。「ケアをすることによって、食事を味わうことができるようになり、摂取量が増えた患者さんもいる」（管理栄養士の堤 郁恵さん）



栄養指導を増やしたい

「NST が始まるまで、当院の栄養部門は『厨房』の名称であり、『食事を作る部署』という認識に留まっていた」と話すのは管理栄養士の中村真知子さん。NST で栄

養科の認識はある程度定着してきたので、今後は栄養指導の件数を増やすと同時に集団指導として開催される糖尿病教室も上手く運営していきたいと意気込む。

「当院は2012年を目処に新病棟に移ることになっているが、そこでは現在行っていない選択食を是非とも行いたい。また、そうした機会を活用して各管理栄養士の業務を整理して、栄養指導件数を増やしていければと考えている」（中村さん）

2チーム制のNSTによる栄養管理や口腔ケアの導入を行ってきた愛野記念病院栄養科。新病棟への移転を機に新たなことにチャレンジをしていく。（編集部）



長崎県
雲仙市

伴帥会 愛野記念病院 栄養科

診療科数：15

病床数：260床

平均在院日数：16日

管理栄養士：7名

調理業務：直営

〒854-0301

長崎県雲仙市愛野町甲 3838-1

TEL：0957-36-0015（代表）